

【特集:おらほの農地集積】

「転作組織から地域の担い手へ」

～ 法人化による地域の活性化 ～

えんだにき 円田2期地区



1. 地区の概要

事業名：県営ほ場整備事業（担い手育成型） 担い手農家戸数：個別10戸
 関係市町村：蔵王町 1組織（オベ3名）
 関係土地改良区：蔵王町土地改良区 担い手経営面積
 工期：平成11年～24年 (現在): 56.5ha (平成17年現在)
 受益面積：146.6ha (計画): 91.9ha
 総事業費：3,024百万円 農地集積増加率：64.4% (目標51.4%)
 農家戸数：335戸 農地集積率：38.5% (目標62.7%)

2. 地区の現状

円田2期地区は、水稻を中心に野菜（露地・施設）、果樹、肥育牛等を組み合わせた複合経営を行っています。平成17年度まで71.6ha(全体の48.8%)の面工事が完了し、残りの区域は現在、遺跡を調査中であり、終了次第面工事を実施する予定です。

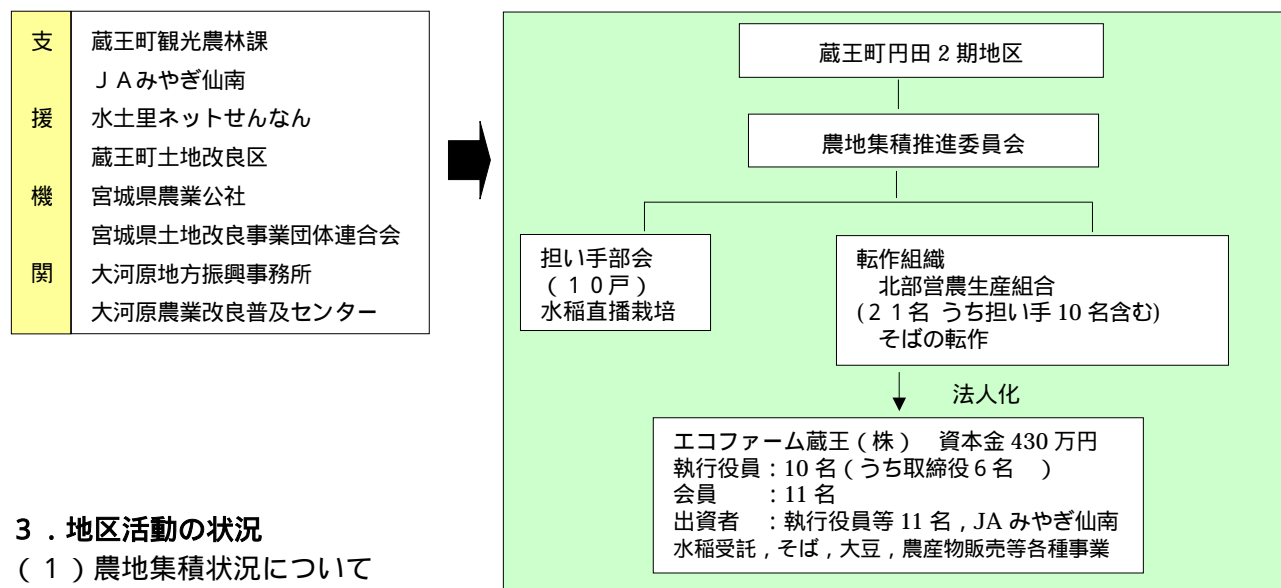
農地集積については、本事業を契機に個別担い手10戸への農地の集積、経営規模の拡大や複合部門の充実を図り、転作組織（北部営農生産組合）による「そば」栽培など多彩な農業経営の展開してきました。

農地集積推進委員会では、北部営農生産組合を平成19年度から始まる品目横断的経営安定対策に対応できる担い手として位置づけ、組合の認知度を上げるため「そば収穫祭」等を催し地域との交流を図りました。

その結果、平成18年9月に北部営農生産組合が発展的に解散し、法人として「エコファーム蔵王」が誕生しました。さらに農地集積推進委員会では平成18年4月に意向調査を行う等、事業の推進を図っています。

推進体制図

<ほ場整備地区の関係図>



3. 地区活動の状況

(1) 農地集積状況について



ほ場整備前



ほ場整備完了10年後の目標計画



平成18年度集積状況
(●は遺跡地区)

農地集積について、平成18年度は12.2ha(前年度より5ha増)となっており、そばの転作を北部営農生産組合が作付けしています。担い手部会では平成18年度で8.5ha(地区内外10ha,前年度より5ha増)と水稻直播の栽培面積を拡大し、その結果、平成18年の地区内の担い手への農地集積は59haの見込みとなっています。

(2) 北部営農生産組合の法人化

北部営農生産組合は、円田2期地区の事後転作組織として、ほ場整備を契機に平成15年に誕生し、秋そばを作付けしてきました。

法人化に向けての取組みは、平成17年に農事組合法人のドリームファクトリ-(山形県)、平成18年には(有)耕谷アグリサービス(名取市)に行き、麦、大豆栽培・水稻受託方法等、法人経営に必要なことを視察研修。「米政策大綱」や「経営所得安定対策」を見据え、地域に根ざした責任ある組織として、農業の振興、地域の活性化、集落営農の推進に必要なことを検討。そして、平成18年9月15日に社名を「エコファーム蔵王」として株式会社を創立し、平成19年度からの新たな政策に対応できる体制を整えました。

また、農業生産法人として農地の借地契約を結び、計画的生産を行うこととし、事業の内容を次のように掲げています。

転作(そば、大豆など)の実施、農作業の受託、安全で安心な農産物の生産と販売、農産加工組織と連携販売、農産物直売所の開設、体験農業の受入れ、余剰労働力の調整、集落環境の整備と活用、後継者の育成、会員の育成、女性起業の場等



そば播種作業



そばの開花状況



エコファーム蔵王(株)の取締役

エコファーム蔵王の生産活動は、円田1期地区で大豆を、円田1,2期両地区で水稻を受託、周辺の畑等ではそばを作付けする予定です。また、農産物直売所を県道岩沼蔵王線沿いに設置することを計画しています。

今後、エコファーム蔵王は地元住民や農家との連携、新規就農者の受入れ、環境に優しい農業、高付加価値型農業への取組み等、地域農業の核としての活躍が期待されています。

(3) 担い手部会の水稲直播栽培

本年度の水稲直播は、地区内外10.3ha(地区内8.5ha)作付けされており、省力化による複合部門の強化、農繁期の労働分散など、ほ場整備による直播のメリットが活かされています。また、当地域は複合農家が多いため、ほ場整備を契機に直播栽培の面積が拡大しています。



直播作業



現地検討会



直播栽培
(左側)

移植栽培
(右側)

問い合わせ先
 水土里ネットざおう(蔵王町土地改良区)
 〒989-0831 宮城県刈田郡蔵王町大字平沢字寺前77
 TEL: 0224-33-2761 FAX: 0224-33-3632